

ミクロ経済学演習

吉川 満¹⁾

平成 22 年 12 月 26 日

¹⁾mitsurukikkawa@hotmail.co.jp, <http://kikkawa.cyber-ninja.jp/>

目次

第 1 章	消費者理論	3
1.1	基本事項	3
1.2	問題	3
第 2 章	企業行動	5
2.1	基本事項	5
2.2	問題	5
第 3 章	競争均衡	7
3.1	基本事項	7
3.2	問題	7
第 4 章	不完全競争	9
4.1	基本事項	9
4.2	問題	9
第 5 章	不確実性	11
5.1	基本事項	11
5.2	問題	11
第 6 章	ゲーム理論	13
6.1	基本事項	13
6.2	問題	13
	数学付録	15

注意

本演習問題の一部は、公務員試験(国家I種試験, 種, 地方上級)の試験問題をそのまま掲載しています。そのため著作権の問題が生じられる方もいらっしゃると思いますが、国や地方公共団体の作成した書類の一切に関し、著作権が発生いたしません。これは著作権法の特例になります。これを根拠に試験問題のそのままに掲載しております。ただし各出版社が過去問集を出版されておりますが、そこに書かれている試験問題の解答、解説は当然出版社が著作権を有しています。この解釈に問題がある場合は対応いたしますので、ご連絡頂けると、幸いです。

またこの演習問題集は経済学を学ぶための一助を目的としております。常に発展途上です、筆者の勝手な気分により、このミクロ経済学の演習問題集を拡張していきたいと考えております。そのため不定期に問題を入れ、解答を加える予定です。そのため私自身がやる気になるような問題をお持ちのある方はご連絡頂けると幸いです。

吉川 満
Mitsuru Kikkawa

第1章 消費者理論

1.1 基本事項

1.2 問題

1. 弾力性

[I-S60-1]

ある人の持つ効用関数を $u = x^{0.4} \cdot y^{0.6}$ とする (x : x 財, y : y 財). この人の x 財に関する需要の価格弾力性を α , 需要の所得弾力性を β , 需要の交差弾力性を γ とする. このとき α, β, γ はどのような値をとるか次の1から5より, 正しいものを選べ.

- 1 $\alpha > 1, \beta = 1, \gamma = 1$
- 2 $\alpha = 1, \beta < 1, \gamma > 1$
- 3 $\alpha = 1, \beta = 1, \gamma < 1$
- 4 $\alpha < 1, \beta > 1, \gamma < 1$
- 5 $\alpha < 1, \beta < 1, \gamma < 1$

2. 弾力性

[I-S62-1]

2種類の財 q_1, q_2 を消費する個人の効用関数が, $U = q_1 \cdot q_2$ で示されるとき, この個人が予算制約 $y = p_1 q_1 + p_2 q_2$ (p_1 : q_1 財の価格, p_2 : q_2 財の価格)の下で効用を最大化するように合理的に行動している. このとき, q_1 財の需要の (A) 需要弾力性, および (B) 交差弾力性の組合せとして妥当なものを次の1から5より選べ.

- | | (A) | (B) |
|---|----------------|----------------|
| 1 | -1 | 0 |
| 2 | -1 | 1 |
| 3 | 1 | 0 |
| 4 | $\frac{1}{2}$ | $-\frac{1}{2}$ |
| 5 | $-\frac{1}{2}$ | 0 |

3. 弾力性

[I-H5-2]

X 財の需要関数と供給関数が、それぞれ、

$$D_X = 15 - P_X$$

$$S_X = \frac{3}{2}P_X$$

$$\left(\begin{array}{l} D_X : X \text{ 財の需要量, } P_X : X \text{ 財の価格} \\ S_X : X \text{ 財の供給量} \end{array} \right)$$

で示され、また Y 財の需要関数と供給関数が、それぞれ、

$$D_Y = 22 - 2P_Y$$

$$S_Y = \frac{5}{3}P_Y$$

$$\left(\begin{array}{l} D_Y : Y \text{ 財の需要量, } P_Y : Y \text{ 財の価格} \\ S_Y : Y \text{ 財の供給量} \end{array} \right)$$

で示されるとき、次の1から5より正しいものを選び。なお、 $e_i (i = X, Y)$ は、財 i に対する需要の価格弾力性 (絶対値) を示す。

- 1 e_X, e_Y はいずれも市場均衡点で最大となる。
- 2 市場均衡点よりも価格が低い範囲で価格が下落すると、 e_X, e_Y および2財に対する支出額はいずれも減少する。
- 3 e_X, e_Y はいずれも常に一定で価格が下落すると、2財に対する支出額はそれぞれ増加する。
- 4 市場均衡点における e_i を比較すると、 $e_X < e_Y$ が成立し、均衡点から価格が上昇すると、 Y 財に対する支出額は減少する。
- 5 2財の価格が等しければ、常に $e_X < e_Y$ であり、かつ、価格が変化した場合の支出額の変化幅は Y 財のほうが大きい。

4.

第2章 企業行動

2.1 基本事項

2.2 問題

第3章 競争均衡

3.1 基本事項

3.2 問題

第4章 不完全競争

4.1 基本事項

4.2 問題

第5章 不確實性

5.1 基本事項

5.2 問題

第6章 ゲーム理論

6.1 基本事項

6.2 問題

数学付録

関連図書

[1]

[2]